

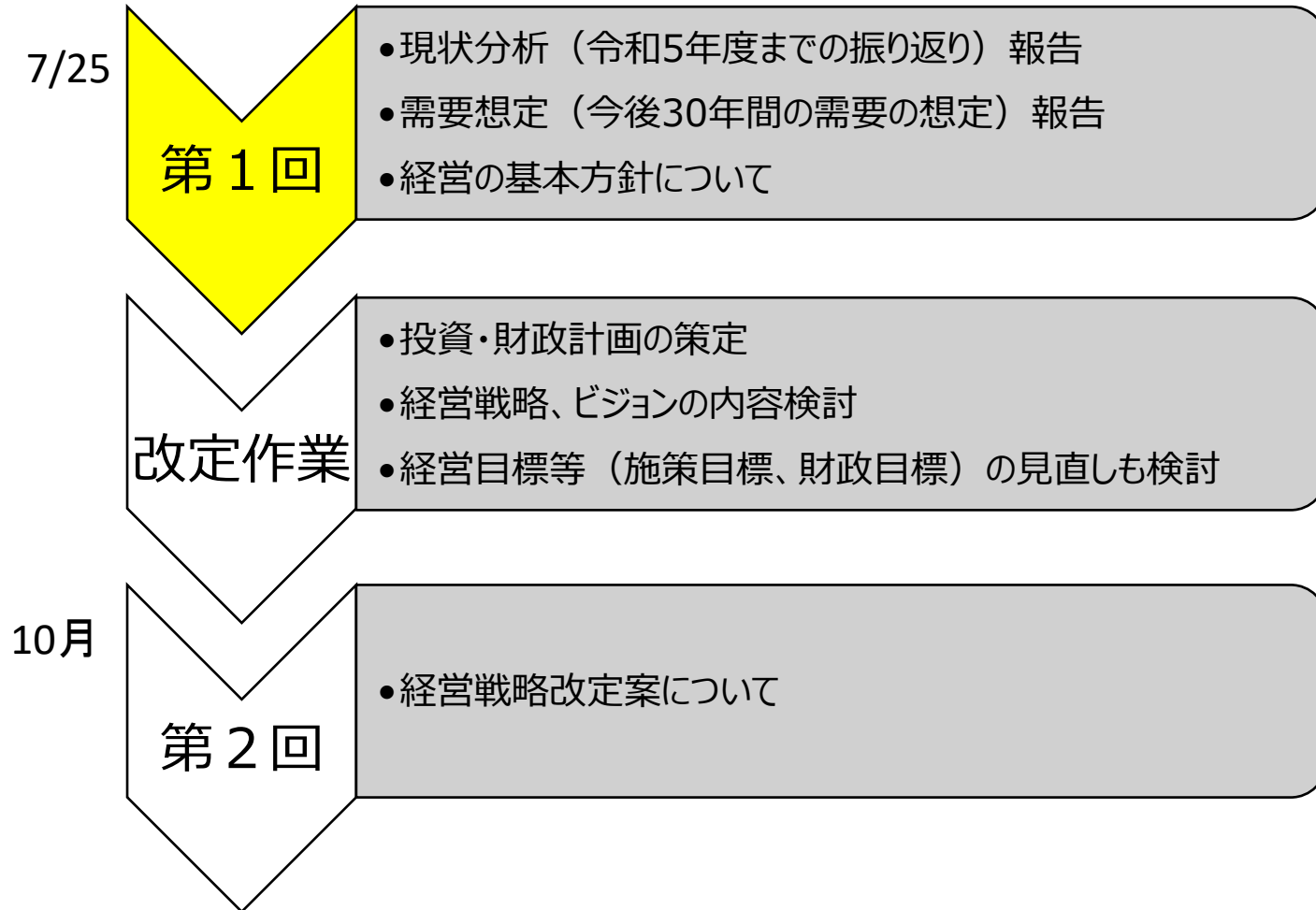
第 1 回 大津市水道事業、下水道事業及びガス事業
経営戦略等改定に関する懇談会

令和6年度改定に関する
説 明 資 料

令和6年7月25日

経営戦略改定までの大きな流れ・・・・・・・・	P 3
I. 水道事業・・・・・・・・・・・・・・・・	P 4
II. 下水道事業・・・・・・・・・・・・・・・・	P 15
III. ガス事業・・・・・・・・・・・・・・・・	P 25

経営戦略改定までの大きな流れ



※第2回懇談会後は下記のスケジュールを予定

12月 議会説明

1月 パブリックコメント

3月 公表

I 水道事業

- 1 令和2年度改訂版(令和3～5年度)の目標等達成状況・・・P 5
- 2 令和6～36年度の需要・収益想定結果・・・・・・・・・・ P 12
- 3 経営の基本方針について・・・・・・・・・・・・・・・・ P 14

1 令和2年度改訂版(令和3～5年度)の目標等達成状況

(1) 経営目標

- 経営目標の3項目について、すべて目標を達成した。
- 令和5年度における計画値に対する実績及びその主な原因は、下表のとおり。

【計画】

【実績】 (単位：百万円)

		中長期経営計画（前期）				中長期経営計画（前期）			
		R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5	R6
経営目標①	現預金残高（ 40億円確保 ）	3,638	3,410	3,576	3,574	5,169	4,379	5,301	
経営目標②	企業債残高（ 181億円以下 ）	16,603	16,376	16,067	16,020	15,796	15,383	15,695	
経営目標③	当年度純利益（ 確保 ）	900	883	845	616	1,421	981	336	

目標項目	R5計画	R5実績	達成度	主な原因
現預金残高	35.76 億円	53.01 億円	○	R4年度末時点で上振れ（計画比）していたことに加え、今後の資金需要を勘案し、借入を増額（計画比）したことなどにより、計画値を上回った。
企業債残高	160.67 億円	156.95 億円	○	前述したとおり、R5年度は、借入を増加させたが、R3及び同4年度は、建設改良費が下振れしたことに伴い、借入を減額させた。これらが相まった結果、計画値を下回った。
当年度純利益	8.45 億円	3.36 億円	○	R5年度は、主に物価高騰の影響で営業費用が多額に発生したことにより、計画値を下回った。

(2) 施策目標 1/2

- 施策目標21項目（評価対象外1項目を除く）の進捗状況を確認し、令和5年度末時点において、目標どおりに進捗※1しているものが17項目、目標に向け概ね進捗※2しているものが3項目、目標を下回る※3ものが1項目であった。
- 概ね進捗している3項目及び目標を下回る1項目の原因等は下表のとおり。

施策目標		未達成項目		目標 (R6)	目標 (R5)	実績 (R5)	未達成の 原因及び対策
安全	4項目	安全	鉛製給水管 残存戸数 (戸)	3,800	5,375	6,158	・ 黒津二丁目における工事が繰越となったことにより、目標が達成できなかった。 ・ 現状を踏まえると、R6年度目標の達成は困難と考えており、目標を見直す方向で検討を進める。
						達成率 87%	
強靱	7項目	強靱	配水ブロックの 構築数 (ブロック)	47	44	40	・ R5年度は目標構築数3ブロックに対し4ブロック構築したが、R3年度に比良浄水場廃止に向けた洗管作業を優先したことなどにより、結果として目標（累積構築数）が達成できなかった。 ・ 今後はR2年度に設置した大規模洗管等調整会議を活用し、目標の達成に向けて局内横断的に取り組んでいくが、R6年度目標の達成は困難と考えており、目標を見直す方向で検討を進める。
						達成率 91%	
持続	10項目 (評価対象外を除く)						

青字は令和5年度においては評価対象外

※1「目標どおりに進捗」とは、「実績÷目標≥95%」の場合を指す。※2「目標に向け概ね進捗」とは、「実績÷目標≥75%」の場合を指す。※3「目標を下回る」とは、「実績÷目標<75%」の場合を指す。

(2) 施策目標 2/2

- 施策目標21項目（評価対象外1項目を除く）の進捗状況を確認し、令和5年度末時点において、目標どおりに進捗※1しているものが17項目、目標に向け概ね進捗※2しているものが3項目、目標を下回る※3ものが1項目であった。
- 概ね進捗している3項目および目標を下回る1項目の原因等は下表のとおり。

施策目標		未達成項目		目標 (R6)	目標 (R5)	実績 (R5)	未達成の 原因及び対策
安全	- 水安全計画の評価の実施率 - 水質基準不適合率 - 鉛製給水管残存戸数 - 鉛製給水管率 4項目	強 靱	基幹管路の耐震化率(%)	41.1	40.2	37.5 達成率 93% 	- 一部の管布設替工事（真野四丁目ほかにおける送配水管推進工事、山上低区配水池系の老朽管布設替工事など）について、R6年度に繰越となったことにより、目標が達成できなかった。 - 上記工事は、R6年度に完工予定ではあるが、R6年度目標達成は困難であると考えており、目標を見直す方向で検討を進める。
強 靱	- 浄水場数 - 配水ブロックの構築数 - 浄水施設耐震化率 - 配水池耐震化率 - 管路の耐震化率 - 基幹管路の耐震化率 - 応急給水時の確保水量 7項目						
持 続	- お客様アンケート（需要家意識調査）の実施 - パブリックコメントの実施 - 大津市水道事業アセットマネジメントの改定 - 内部研修時間 - 外部研修時間 - 研究発表会等への年間論文投稿数 - 他水道事業体と共同で行う研修・訓練の年間開催回数 1年間の全施設の電力消費量 - 配水量 1 m3あたりの電力消費量 - 浄水発生土の有効利用率 - 有収率 10項目 (評価対象外を除く)	持 続	大津市水道事業アセットマネジメントの改定	-	R5年度に改定実施	改定せず 	- PFI事業の事業者選定中止に伴い、R5年度に予定していたアセットマネジメントは改定しなかった。 - 改定時期については、R6年度改訂版に明記する。

青字は令和5年度においては評価対象外

※1「目標どおりに進捗」とは、「実績÷目標≥95%」の場合を指す。※2「目標に向け概ね進捗」とは、「実績÷目標≥75%」の場合を指す。※3「目標を下回る」とは、「実績÷目標<75%」の場合を指す。

(3) 経営指標

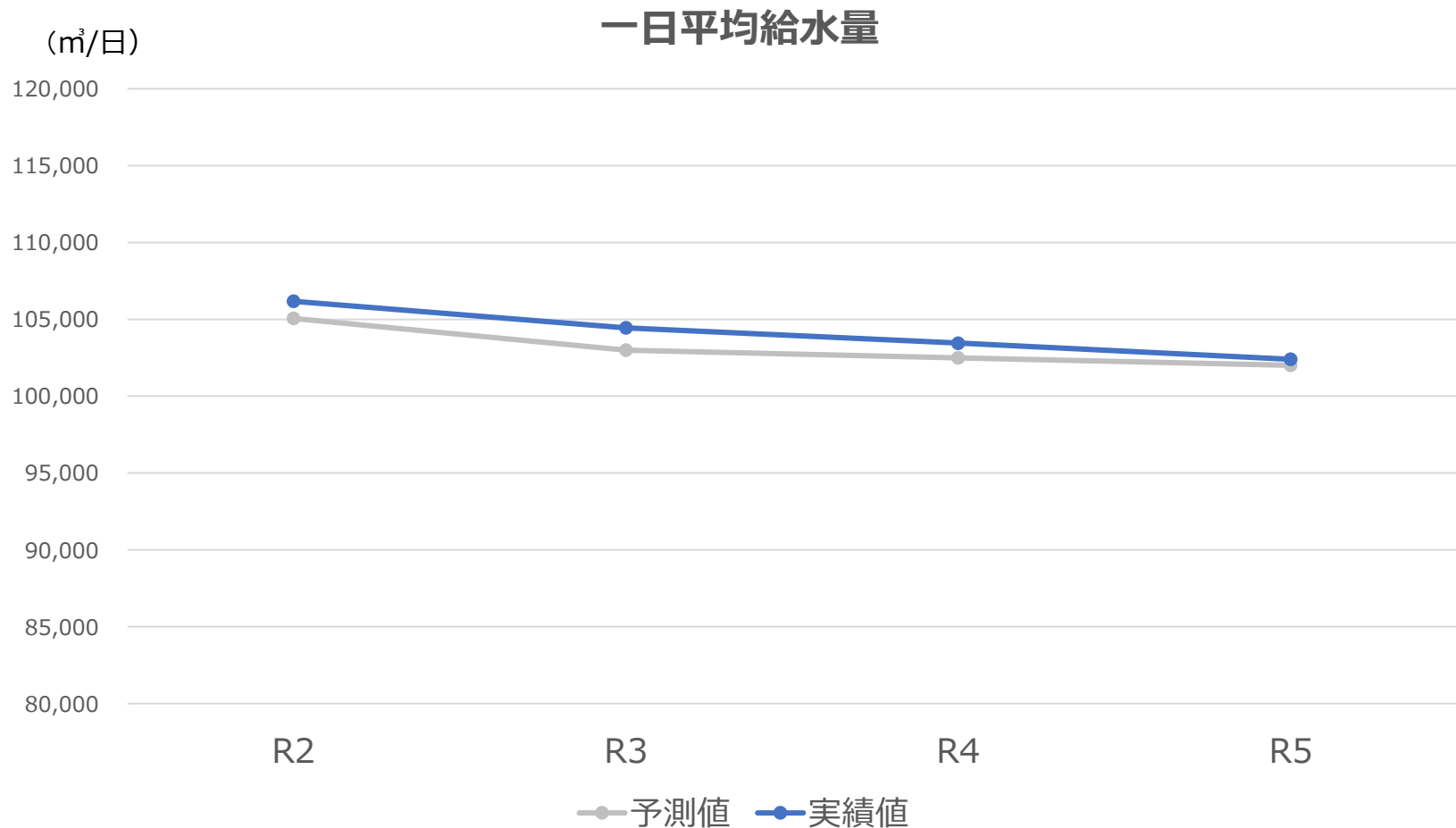
- 経営指標10項目について、進捗状況を確認した結果、実績が計画を下回った項目が5項目あった。
- 健全性・効率性は、物価高騰による経費の増加や運転維持管理の委託費の増加等により、また、老朽化の状況は、一部の管路工事が繰越となったことなどから実績が計画を下回った。
- なお、有収率が95.77%と高い水準（類似団体平均値 91.76%※1）を維持していることから、漏水対策は適切に実施されていると考えられる。 ※1 類似団体平均値はR4年度

経営指標		指標の見方	計画 (R6)	計画 (R5)	実績 (R5)	状況 (R5計画比)
健全性・効率性	経常収支比率 (%)	高いほど良い	109.58	113.55	104.98	△ 達成率92.5%
	流動比率 (%)	高いほど良い	167.35	173.43	204.57	○
	企業債残高対給水収益比率 (%)	低いほど良い	268.48	267.29	265.77	○
	料金回収率 (%)	高いほど良い	105.73	110.06	100.26	△ 達成率91.1%
	給水原価 (円)	低いほど良い	152.27	146.28	157.25	△ 達成率93.0%
	施設利用率 (%)	高いほど良い	58.52	58.85	58.88	○
	有収率 (%)	高いほど良い	95.60	95.50	95.77	○
老朽化	有形固定資産減価償却率 (%)	低いほど良い	47.72	48.20	53.43	△ 達成率90.2%
	管路経年化率 (%)	低いほど良い	27.81	25.29	26.56	○
	管路更新率 (%)	高いほど良い	0.37	0.40	0.45	○

※1類似団体平均値は、公開されている最新値の令和4年度末時点の数値である。

(4) 水需要の予実比較 1/3

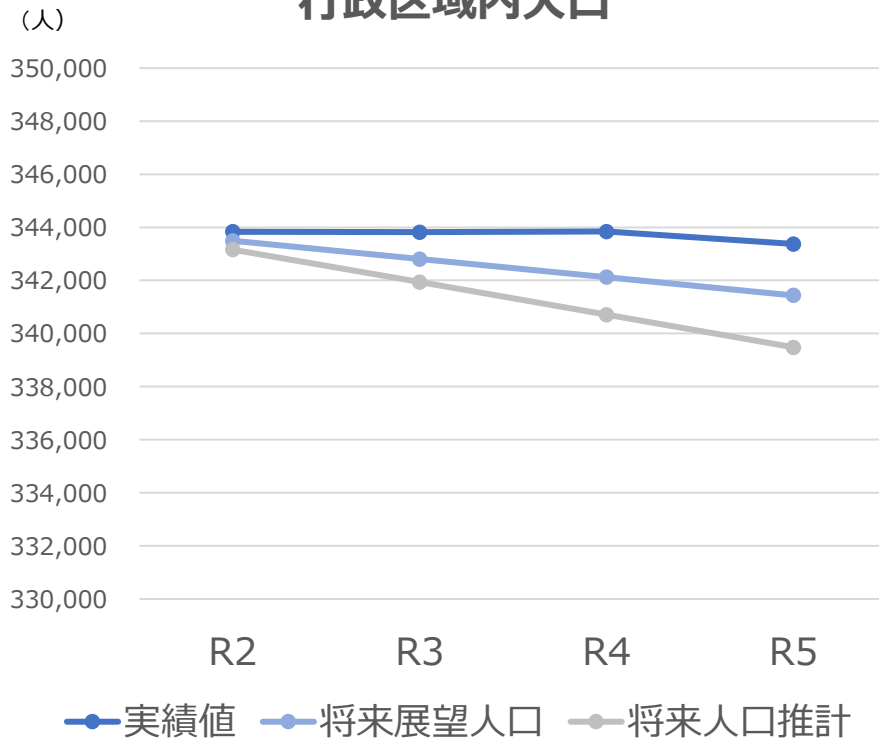
- 全体の水需要（一日平均給水量）の予実比較を実施した結果、予測よりも上振れる結果となった。
- また、年度ごとの推移では、ゆるやかに減少傾向にある。



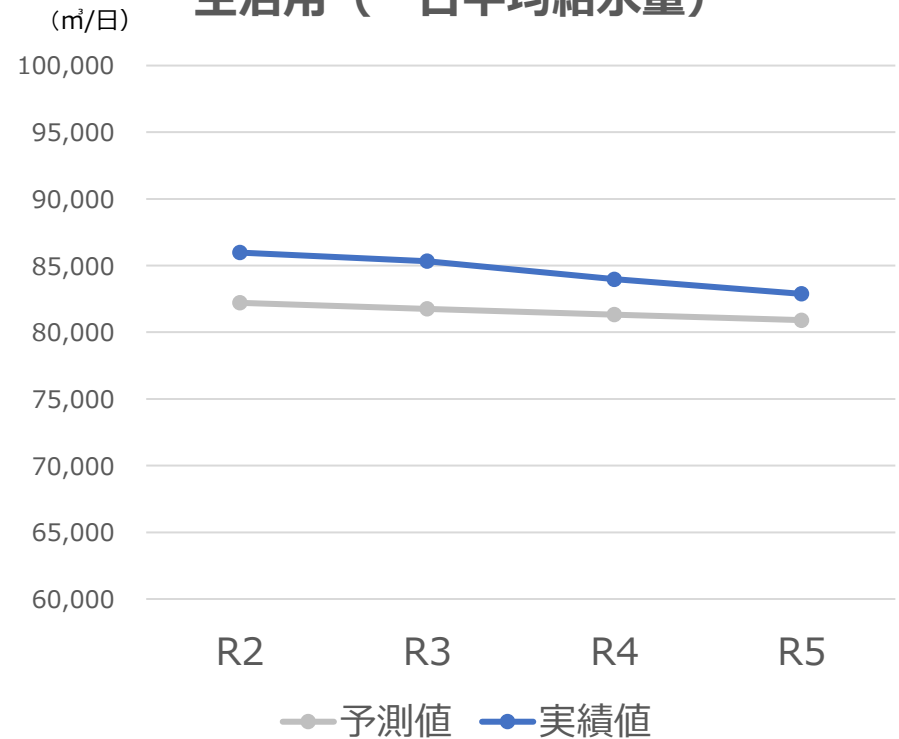
(4) 水需要の予実比較 2/3

- 生活用について、人口と一日平均給水量の予実比較を実施した。
- 人口は上振れし、将来人口推計よりも将来展望人口に近い実績となった。
- 生活用（一日平均給水量）は、人口の上振れ及びコロナ禍の巣籠り需要等の影響により、予測よりも上振れる結果となった。

行政区域内人口

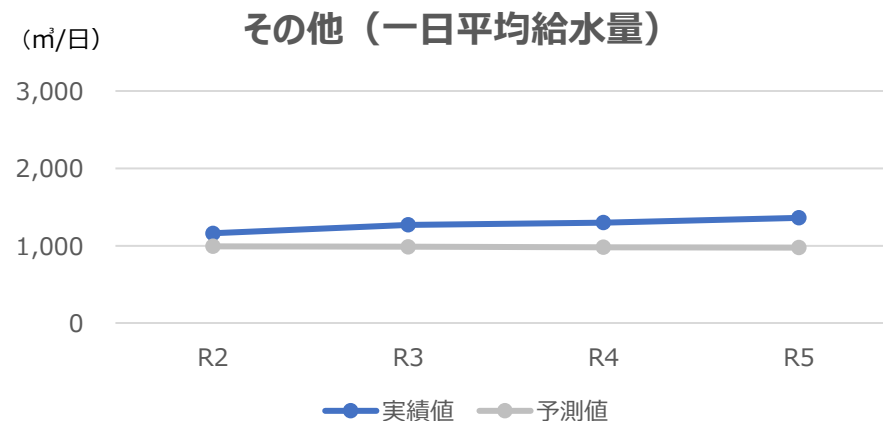
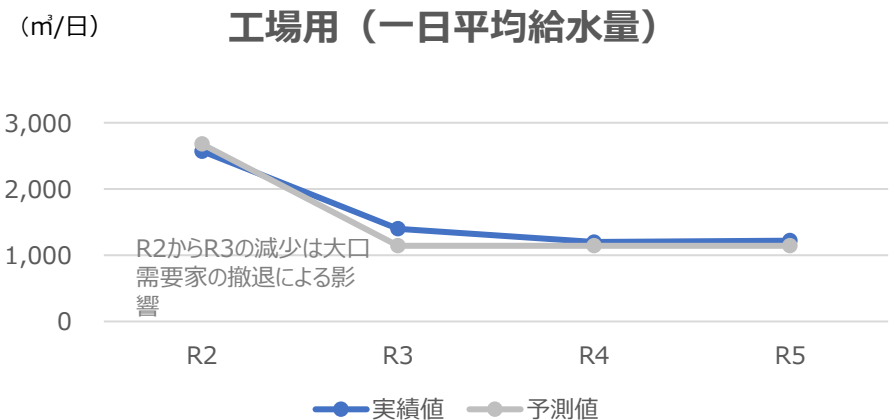
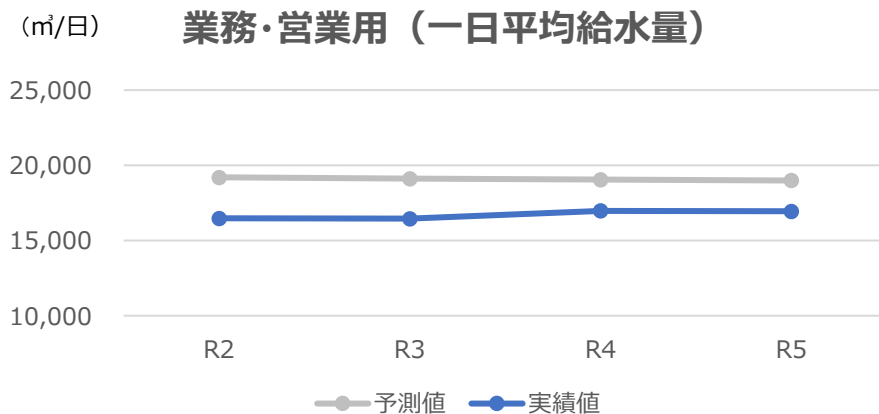


生活用（一日平均給水量）



(4) 水需要の予実比較 3/3

- 生活用以外についても、一日平均給水量の予実比較を実施した。
- R2からR3にかけての大口の撤退に伴う工場用の減少を除き、各用途とも年度ごとに大きな変動はなく概ね横ばいで推移している。



2 令和6～36年度の需要・収益想定結果（需要想定の考え方）

- ・ 有収水量は、1日平均給水量×年間日数で算出
- ・ 1日平均給水量は用途別に算出
- ・ 生活用は1人1日給水量（生活用原単位）×給水人口で算出
- ・ 給水人口は行政区域内人口に比例
- ・ 期待想定、堅実想定 of 2種類の想定を実施

【期待想定・堅実想定の前提条件】

生活用

	期待想定	堅実想定
行政区域内人口	「第二期大津市人口ビジョン」の将来展望人口を基に推計※1	
1人1日給水量 （生活用原単位）	直近（R5）の数値を R6以降継続	本計画期間末のR18に直近7年間※2で最も低い 数値である240 ℓ / 人 / 日となるように平均的に減 少させ、R19以降は当該数値を継続

※1 現行計画では将来人口推計を用いたが、R2年度からR5年度の将来人口推計と実績とのかい離率は0.2%～1.1%であるのに対し、将来展望人口と実績とのかい離率は0.1%～0.6%であったことから、今回の想定においては、実績とのかい離がより小さい将来展望人口を採用することとした。

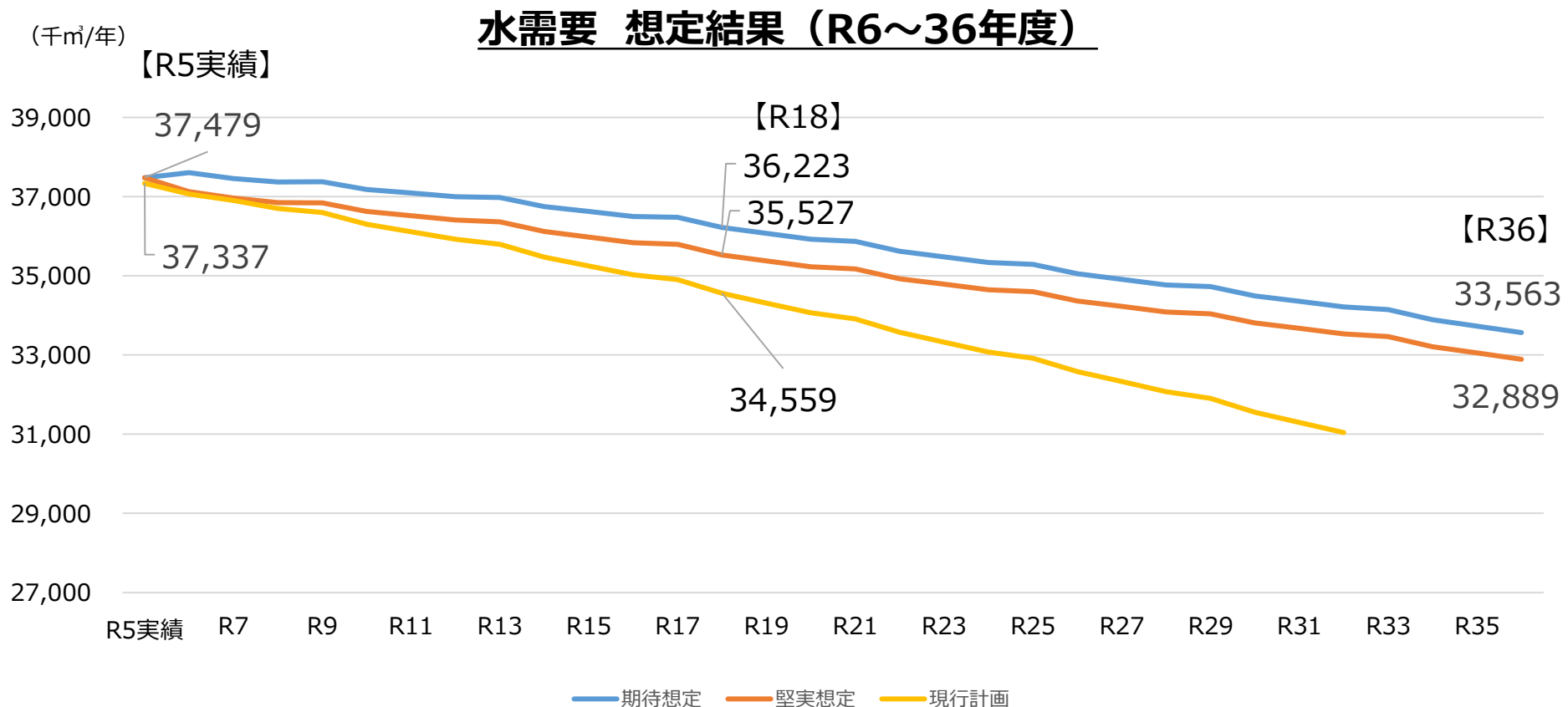
生活用以外

	期待想定	堅実想定
1日平均給水量	直近（R5）の数値と直近7年間※2の平均値のい ずれか高い方の数値をR6以降継続	直近（R5）の数値と直近7年間※2の平均値のい ずれか低い方の数値をR6以降継続

※2 料金改定（H29.4月実施）後の7年間（H29～R5）を使用

2 令和6～36年度の需要・収益想定結果（水需要想定結果）

- 期待想定では、R18年度で約3%減、R36年度で約10%減少する見込みとなった。
- 堅実想定では、R18年度で約5%減、R36年度で約12%減少する見込みとなった。（いずれもR5年度実績比）



3 経営の基本方針について

- ・当初策定（H28年度）から8年が経過し、需要・収益想定の結果を踏まえると、今後より一層厳しい経営状況となることが想定されるが、現行計画の「目指すべき将来像」や「基本方針」は、全く陳腐化していないと考える。
- ・従って、将来像及び基本方針は現行計画と同じもの（文言）を採用する。

【現行計画における将来像と基本方針】

お客様との信頼を未来につなぐ湖都大津の水道

安全で安心な湖都大津の水道

全てのお客様がいつでもどこでも安心して、おいしく
飲める水道を未来につなぎます。

強靱な湖都大津の水道

自然災害等による被害を最小限にとどめ、被災した場合
にあっても、迅速に復旧できるしなやかな水道を実現し、
未来につなぎます。

健全で持続可能な湖都大津の水道

水道を担う人材の確保と経営基盤の強化を図り、健全かつ
持続可能な水道を実現し、未来につなぎます。

変更なし

将来像

基本方針

Ⅱ 下水道事業

- 1 令和2年度改訂版(令和3～5年度)の目標等達成状況・・・ P 16
- 2 令和6～36年度の需要・収益想定結果・・・・・・・・ P 22
- 3 経営の基本方針について・・・・・・・・ P 24

1 令和2年度改訂版(令和3～5年度)の目標等達成状況

(1) 経営目標

- 経営目標の4項目について、すべて目標を達成した。
- 令和5年度における計画値に対する実績及びその主な原因は、下表のとおり。

(単位：百万円)

【計画】

【実績】

		中長期経営計画（前期）			
		R3	R4	R5	R6
経営目標①	現預金残高（ 60億円確保 ）	3,087	3,005	3,141	3,258
経営目標②	分流式下水道等に要する経費への繰入率（ 20%以下 ）	30%	30%	30%	30%
経営目標③	企業債残高（ 160億円以下 ）	33,350	29,935	26,983	24,270
経営目標④	当年度純利益（ 確保 ）	1,393	1,634	1,641	1,624

中長期経営計画（前期）			
R3	R4	R5	R6
4,190	4,939	6,026	
20.1%	18.5%	22.0%	
32,749	29,829	27,068	
2,280	1,680	1,616	

目標項目	R5計画	R5実績	達成度	目標達成の主な原因
現預金残高	31.4億円	60.2億円	○	R4・R5年度において、資金需要を勘案し借入を増額させたことにより、+29億円程度の上振れとなった。
分流式下水道等に要する経費への繰入率	30%	22.0%	○	一般会計からの繰入金計画よりも抑制されたことから目標を達成することができた。
企業債残高	269.8億円	270.6億円	○	R4・R5年度において、資金需要を勘案し借入を増額させたことから計画値より若干上回ったものの計画どおり進捗している。
当年度純利益	+16.4億円	+16.1億円	○	主に繰入の減少に伴う営業外収益の減少により計画を下回る結果となった。

1 令和2年度改訂版(令和3～5年度)の目標等達成状況

(2) 施策目標

- 施策目標15項目の進捗状況を確認し、令和5年度末時点において、目標どおりに進捗^{※1}しているものが13項目、目標に向け概ね進捗^{※2}しているものが2項目であった。
- 概ね進捗している2項目の原因等は下表のとおり。

施策目標		未達成項目	目標 (R6)	目標 (R5)	実績 (R5)	未達成の原因及び対策
安全・安定 環境保全 持続・経営	- 雨水渠整備面積 - 雨水貯留浸透施設助成数 - 重要な幹線管渠の耐震化率 - 処理場・中継ポンプ場耐震化率 - マンホールトイレシステム用管渠整備数 - 管渠調査延長 - 管渠更新延長 - 中継ポンプ場設備の対策設備数 - 処理場設備の対策設備数 - 高度処理率 - 下水道BCP訓練実施回数 11項目	雨水貯留浸透施設助成数(個)	942	892	839 達成率 94% △	民間住宅等への雨水貯留浸透施設の設置に対し平成19年度から助成を実施している。広報誌等で継続的に普及啓発を実施しているが、制度開始から17年が経過し、近年、設置件数が減少傾向にある。これは関心の高い方への需要が一定程度、満たしてきていることが原因と思われる。 対策としては、ホームページや広報誌等への雨水貯留タンク等の効果や助成制度の啓発を継続するとともに、昨年度から始めた本市公式LINEを活用したPR等に努める。
	- 人口普及率 - 水洗化率 - 植生浄化施設整備率 3項目	中継ポンプ場設備の対策設備数	227	206	194 達成率 94% △	更新対象である自動通報設備の通信回線について、令和6年1月よりアナログからIP網へ移行されることが判明し、全体的に改築計画を見直したことから進捗遅れが生じた。令和5年度は挽回すべく取り組んだものの、急激な物価上昇に伴う入札不調により遅れが生じている。本件は交付金事業であることから、設計単価について特別調査に基づく額を用いるため、本市独自で条件を見直すことはできないが、調査実施機関に対し可能な限り最新の物価を反映するよう要望している。
	内部研修時間 1項目					

※1 「目標どおりに進捗」とは、「実績÷目標≥95%」の場合を指す。

※2 「目標に向け概ね進捗」とは、「実績÷目標≥75%」の場合を指す。

【参考】「目標を下回る」とは、「実績÷目標<75%」の場合を指す。

1 令和2年度改訂版(令和3～5年度)の目標等達成状況

(3)経営指標

- 経営指標10項目について進捗状況を確認した結果、R5年度計画値に対して経営の健全性・効率性については比較的順調に推移している一方、老朽化の状況については管渠改善率が未達となっている。これは、カメラ調査の結果、改善が必要な管渠が少なかったことによるものである。
- なお、本市の管渠老朽化率が類似団体平均値7.75%※1より低いことから管渠の老朽化が比較的進んでいないと判断できるため、管渠改善率については老朽化率とのバランスも踏まえながら今後計画値を見直すことも考えられる。

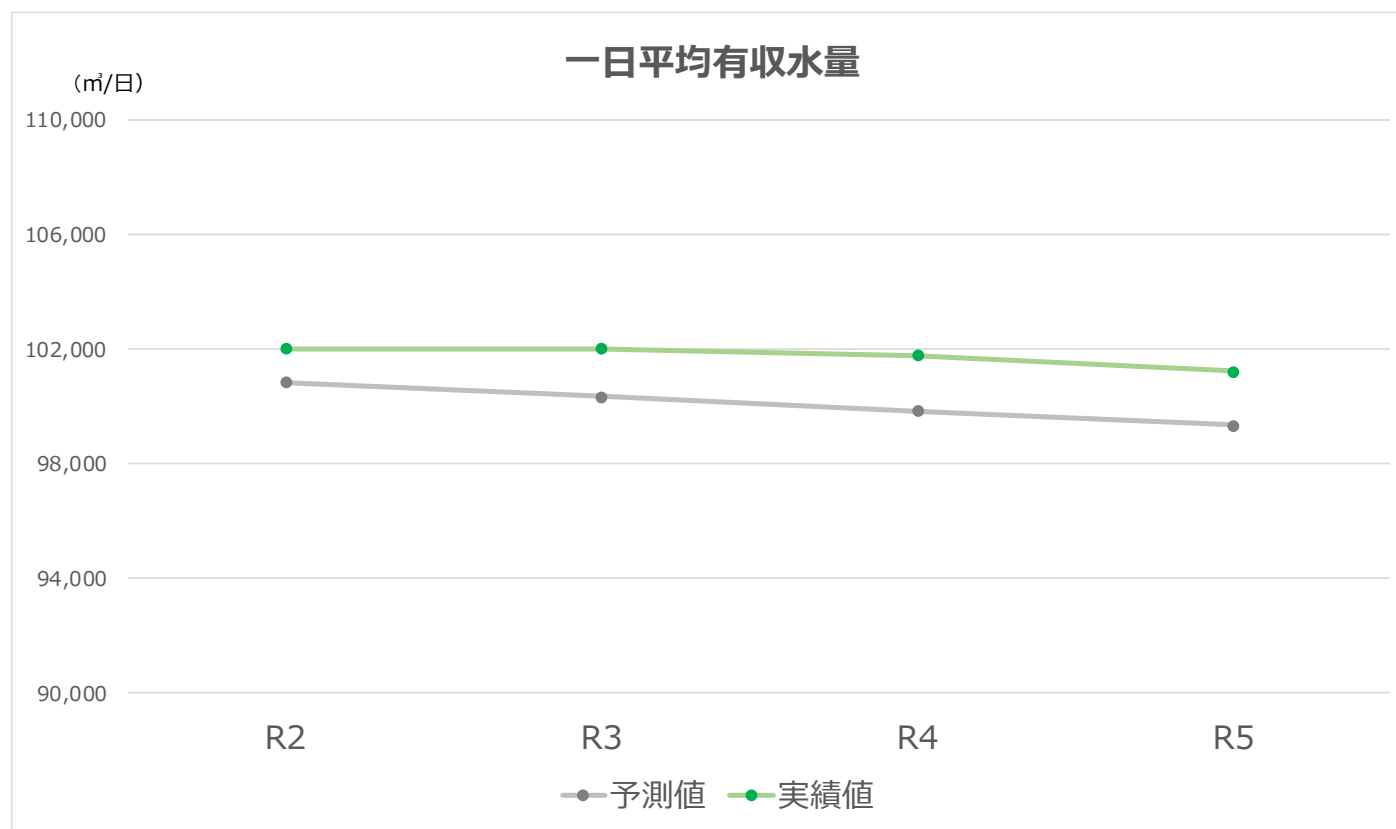
経営指標		指標の見方	計画 (R6)	計画 (R5)	実績 (R5)	状況 (R5計画比)
健全性・効率性	経常収支比率 (%)	高いほど良い	118.87	118.86	118.47	○ 達成率99.7%
	流動比率 (%)	高いほど良い	86.65	86.02	143.53	○
	企業債残高対事業規模比率 (%)	低いほど良い	365.79	365.79	388.14	△ 達成率94.2%
	経費回収率 (%)	高いほど良い	132.27	132.12	135.95	○
	汚水処理原価 (円)	低いほど良い	135.38	135.17	132.52	○
	施設利用率 (%)	高いほど良い	63.40	63.72	62.83	○ 達成率98.6%
	水洗化率 (%)	高いほど良い	98.60	98.50	98.34	○ 達成率99.8%
老朽化	有形固定資産減価償却率 (%)	低いほど良い	36.75	35.09	36.20	○ 達成率96.9%
	管渠老朽化率 (%)	低いほど良い	5.13	4.76	4.29	○
	管渠改善率 (%)	高いほど良い	0.14	0.08	0.04	✕ 達成率45.6%

※1類似団体平均値は、公開されている最新値の令和4年度末時点の数値である。

1 令和2年度改訂版(令和3～5年度)の目標等達成状況

(4) 下水道使用量の予実比較 1/3

- 家庭用および家庭用以外を含む、全体の一日平均有収水量の予実比較を実施した結果、予測よりも上振れる結果となった。
- また、年度ごとの推移では、ゆるやかに減少傾向にある。

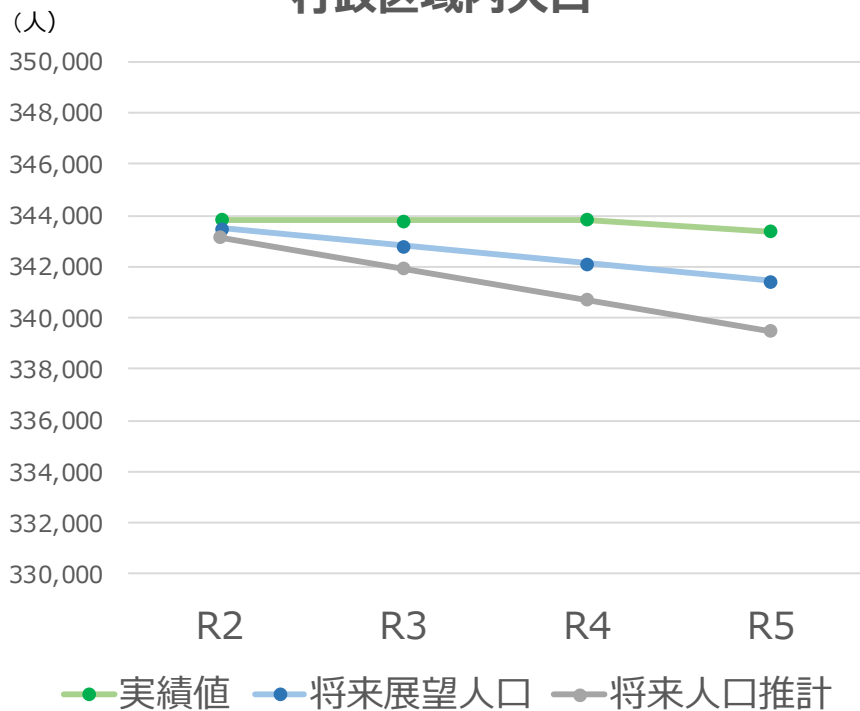


1 令和2年度改訂版(令和3～5年度)の目標等達成状況

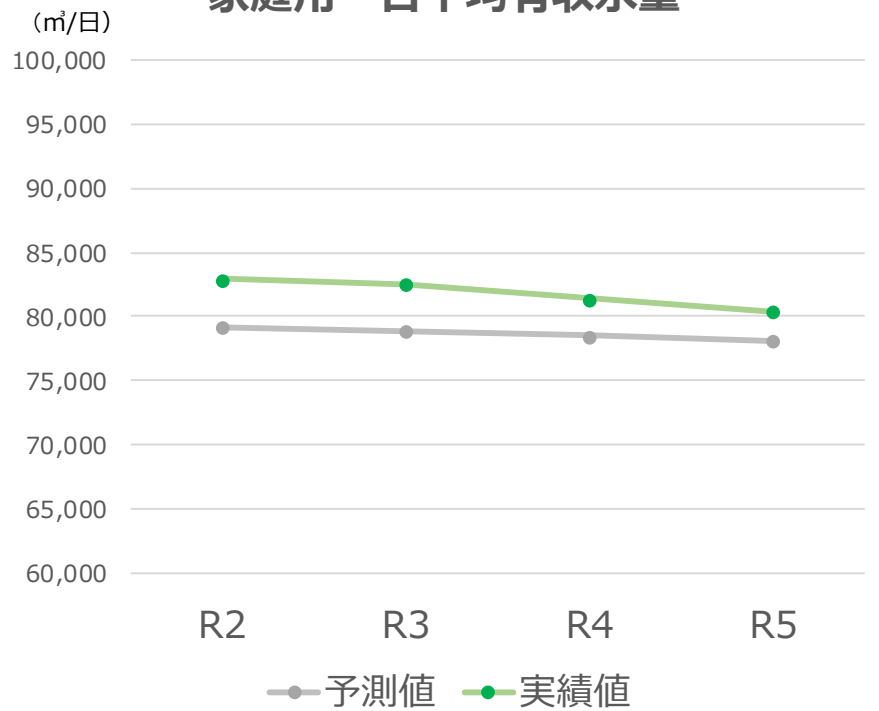
(4) 下水道使用量の予実比較 2/3

- 家庭用有収水量について、人口と一日平均有収水量の予実比較を実施した。
- 人口は上振れし、将来人口推計よりも将来展望人口に近い実績となった。
- 家庭用一日平均有収水量は、人口の上振れおよびコロナ禍の巣籠り需要等の影響により、予測よりも上振れる結果となった。

行政区域内人口



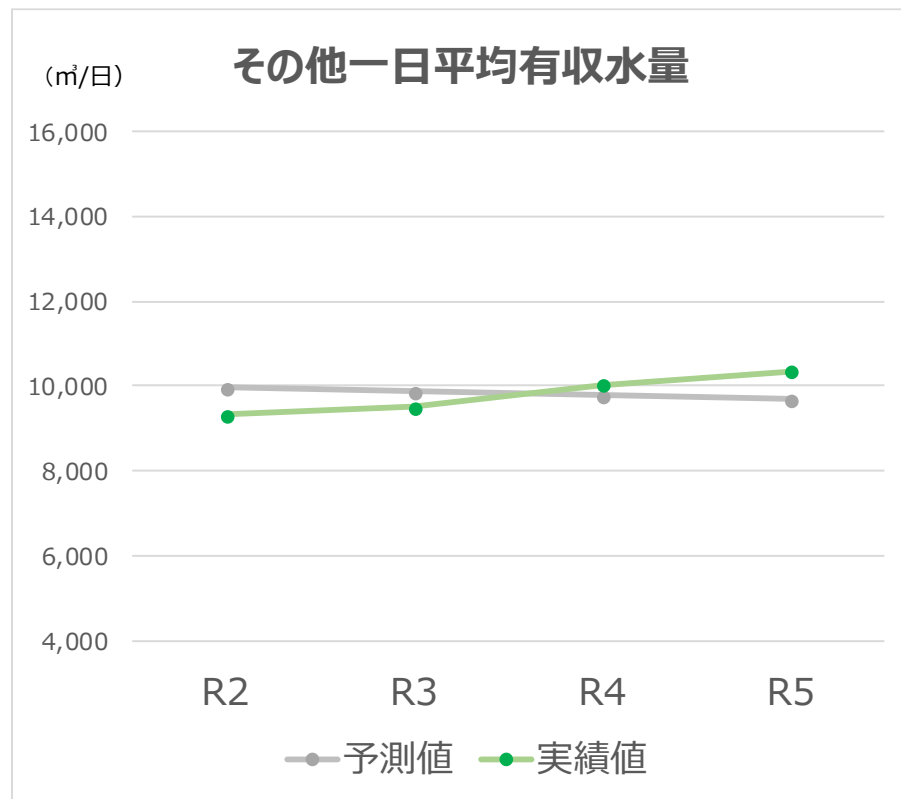
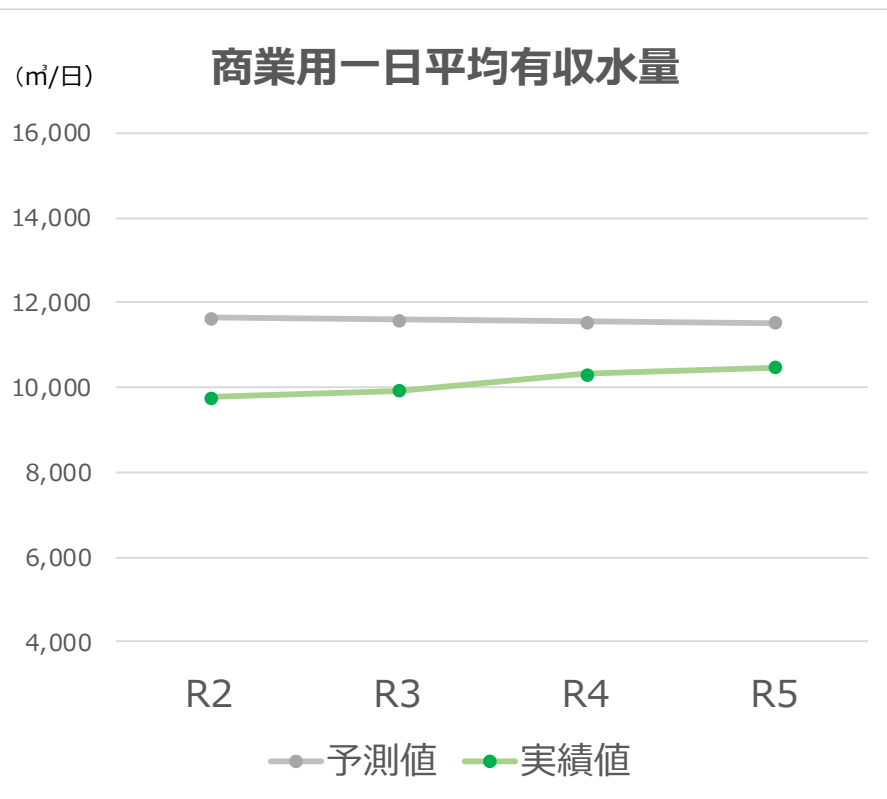
家庭用一日平均有収水量



1 令和2年度改訂版(令和3～5年度)の目標等達成状況

(4) 下水道使用量の予実比較 3/3

- 家庭用以外の有収水量について、一日平均有収水量の予実比較を実施した。
- いずれもR2からR3のコロナ禍における水量より回復傾向にあり、R4以降は概ね横ばいで推移している。



2 令和6～36年度の需要・収益予想結果（需要想定の方）

- ・ 有収水量 = 1日平均有収水量 × 年間日数
- ・ 1日平均有収水量は用途別に算出しており、家庭用は家庭用水洗化人口1人1日あたり平均有収水量 × 水洗化人口で算出
- ・ 水洗化人口は処理区域内人口 × 水洗化率で算出
- ・ 処理区域内人口は行政区域内人口に比例
- ・ 試算においては、これらの計算要素のうち行政区域内人口、水洗化率、家庭用水洗化人口1人1日あたり平均有収水量、1日平均有収水量の試算条件を以下のとおり現行計画から変化させて試算を行った。

【期待想定・堅実想定的前提条件】

家庭用

	期待想定	堅実想定
行政区域内人口	「第二期大津市人口ビジョン」の将来展望人口を基に推計※1	
水洗化率	R14に目標値を超える99.5% を達成し、その後継続	R14に目標値99.1% を達成し、その後継続
家庭用水洗化人口 1人1日あたり平均有収水量	直近（R5）の数値を R6以降継続	本計画期間末のR18に直近10年間※2で最も低い 数値である238.5ℓ/人/日となるように平均的に減 少させ、R19以降は当該数値を継続

※1 現行計画では将来人口推計を用いたが、R2年度からR5年度の将来人口推計と実績とのかい離率は0.2%～1.1%であるのに対し、将来展望人口と実績とのかい離率は0.1%～0.6%であったことから、実績とのかい離が少ない将来展望人口を採用することとした。

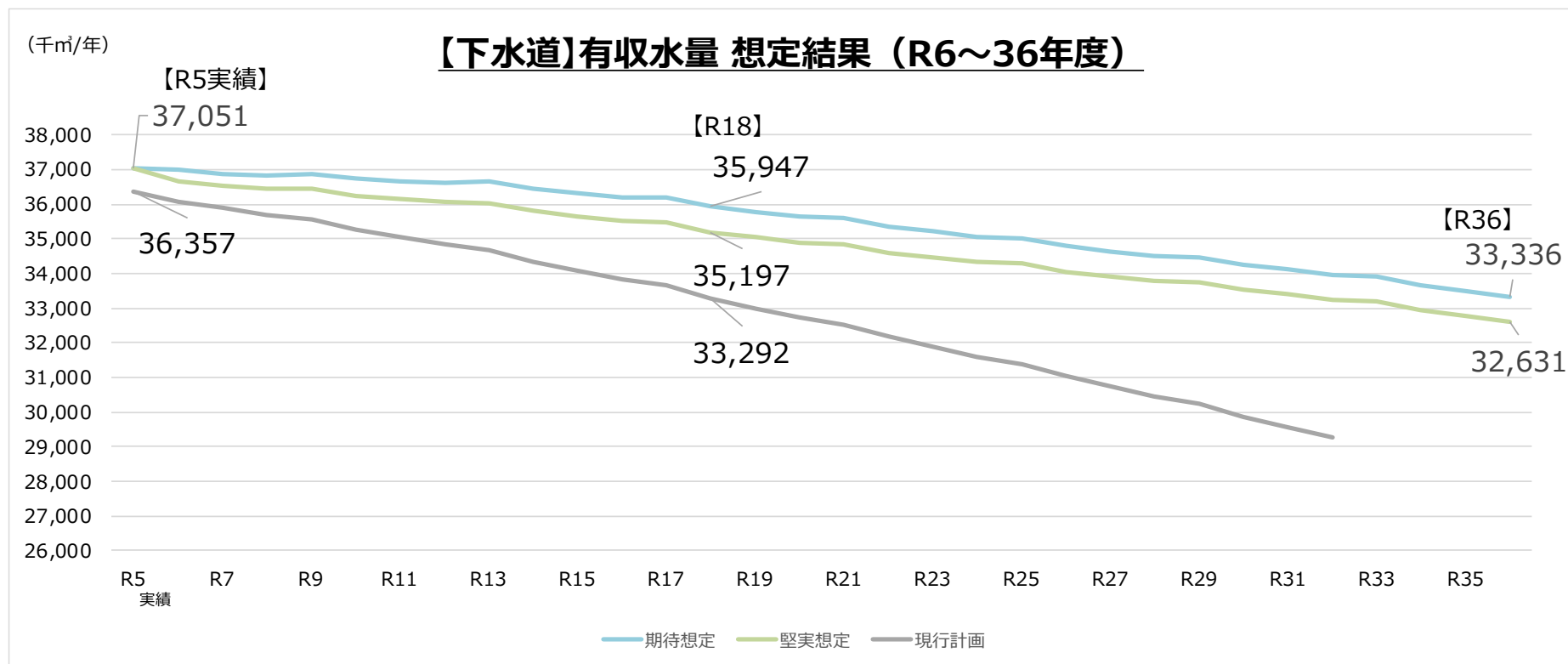
家庭用以外

	期待想定	堅実想定
1日平均有収水量	直近（R5）の数値と直近10年間※2の平均値のい ずれか高い方の数値をR6以降継続 ※柳が崎浄水場下水道放流228m ³ /日について控除	直近（R5）の数値と直近10年間※2の平均値のい ずれか低い方の数値をR6以降継続 ※柳が崎浄水場下水道放流228m ³ /日について控除

※2 直近10年間とはH26～R5を使用

2 令和6～36年度の需要・収益予想結果（有収水量想定結果）

- 期待想定ではR18年度で約3%減、R36年度で約10%減少する見込みとなった。
- 堅実想定ではR18年度で約5%減、R36年度で約12%減少する見込みとなった。
(いずれもR5年度実績比)
- 行政区域内人口の減少に伴い有収水量はゆるやかに減少することが想定される。



3 経営の基本方針について

- ・水道事業にならい「下水道の目指す将来像」を規定。汚水や雨水の排除を通じ、お客様の生活や環境を支え、守るという、下水道の特性を踏まえた将来像とした。
- ・「生活環境の保全や水環境の再生」は「安全、安心で安定した大津の下水道」に包含することとし、近年課題となっている雨水対策について規定。

【現行計画】

将来像

下水道の目指す将来像

基本方針

I.安全で安定した下水道サービスの確保

II.生活環境の保全や水環境の再生

III.持続的な健全経営の維持

将来像

下水道の目指す将来像

お客様の暮らしを支え守り続ける大津の下水道

基本方針

I.安全、**安心**で安定した**大津の下水道**

II.**雨水から暮らしを守る大津の下水道**

III.**健全**で持続可能な**大津の下水道**

Ⅲ ガス事業

- 1 令和2年度改訂版(令和3～5年度)の目標等達成状況・・・ P 26
- 2 令和6～36年度の需要・収益想定結果・・・・・・・・ P 33
- 3 経営の基本方針について・・・・・・・・ P 35

1 令和2年度改訂版(令和3～5年度)の目標等達成状況

(1) 経営目標

- 経営目標の3項目について、すべて目標を達成した。
- 令和5年度における計画値に対する実績及びその主な原因は、下表のとおり。

		【計画】 (百万円)				【実績】 (百万円)			
		中長期経営計画 (前期)				中長期経営計画 (前期)			
		R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5	R6
経営目標①	現預金残高 (現状の残高維持)	9,166	9,370	9,708	10,033	10,187	11,130	11,343	
経営目標②	企業債残高 (ゼロ)	0	0	0	0	0	0	0	
経営目標③	当年度純利益 (確保)	190	78	69	31	622	481	267	

科目	R5計画	R5実績	達成度	主な原因
現預金残高	97.08 億円	113.43 億円	○	家庭用1件あたり使用量が計画を上回ったことに加え、建設改良費が下振れたことにより、15億円程度の上振れとなった。
企業債残高	0	0	○	借入を行っておらず目標どおりの結果となった。
当年度純利益	0.69 億円	2.67 億円	○	計画に比して託送供給収益が増収となったことや、各費用が計画を下回ったことにより、計画値を上回る結果となった。

(2) 施策目標

- 施策目標7項目の進捗状況を確認し、令和5年度末時点において、目標どおりに進捗※1しているものが5項目、目標に向け概ね進捗※2しているものが1項目、目標を下回る※3ものが1項目であった。
- 概ね進捗している1項目および目標を下回る1項目の原因等は下表のとおり。

施策目標

安全

- ・ガス導管総延長（本支管）
 - ・耐震化率
 - ・アスファルトジュート巻鋼管残存延長
 - ・GM型継手鋳鉄管残存延長
 - ・SGM型継手被覆鋼管残存延長
 - ・外部電源装置更新
- 6項目**

持続

- ・内部研修時間
- 1項目**

未達成項目

目標
(R6)目標
(R5)実績
(R5)

未達成の 原因及び対策

安全

アスファルト
ジュート巻鋼
管残存延長
(m)

17,103

17,503

19,417

達成率
90%

アスファルトジュート巻鋼管残存延長は、計画の進捗が進むにつれ、施工難易度の高い路線の割合が多くなるため進捗に遅れが生じている。

現状を踏まえると、R6年度目標の達成は困難。
昨年度の導管整備計画等調整会議で、優先順位を定めたため、それに合わせ目標値を見直し、確実に施工できるよう努める。

安全

外部電源
装置更新
(基)3
(累積)2
(累積)1
(累積)達成率
50%

施工において、計画外の事象（計画していた深度では電気防食に必要な電位が得られなかった）があり、工期を延長したため目標未達となった。

今後は早期発注により、計画どおりの進捗を図る。

※1 「目標どおりに進捗」とは、「実績÷目標≥95%」の場合を指す。

※2 「目標に向け概ね進捗」とは、「実績÷目標≥75%」の場合を指す。

※3 「目標を下回る」とは、「実績÷目標<75%」の場合を指す。

(3) 経営指標

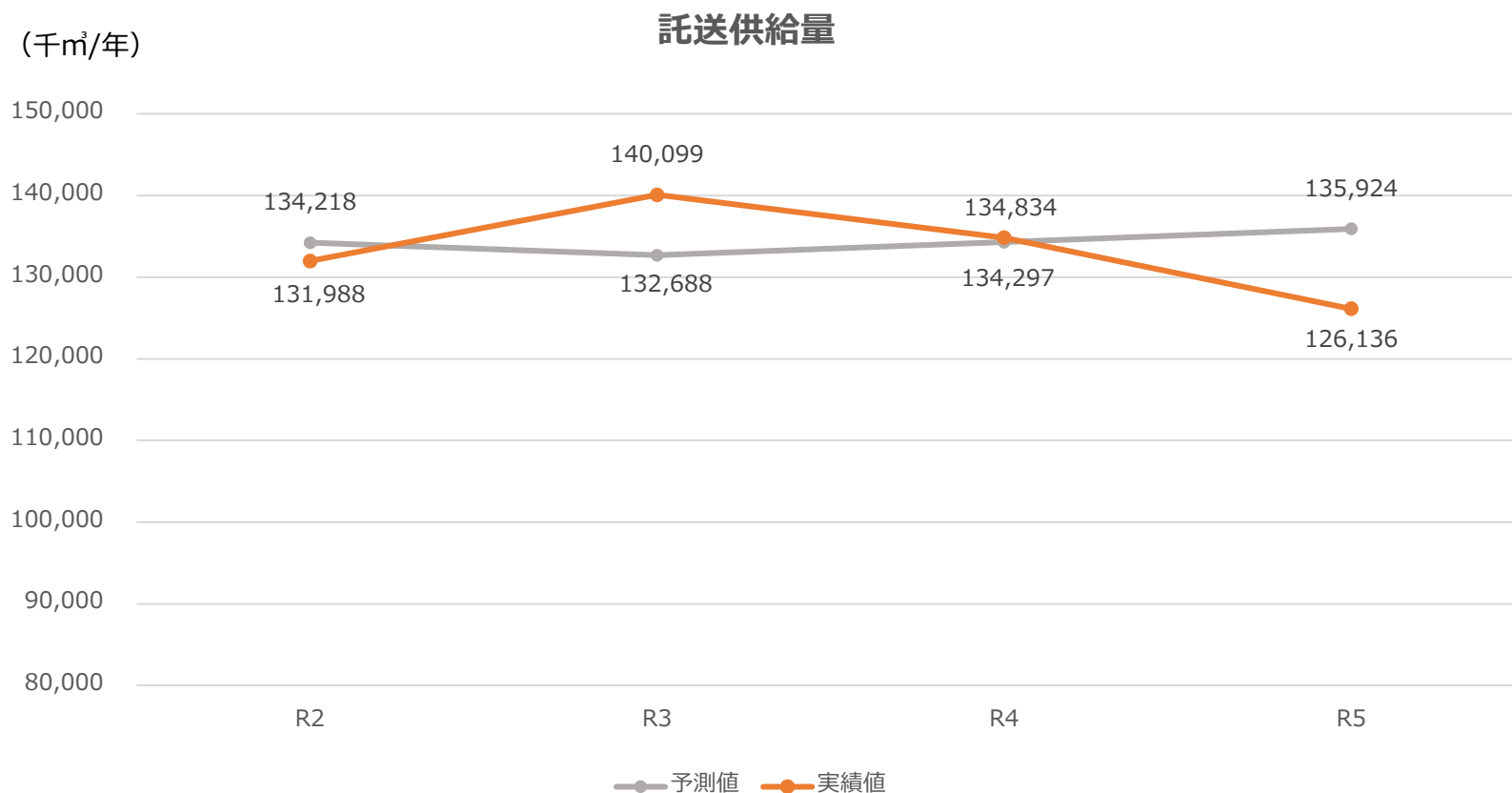
- 経営指標8項目について、進捗状況を確認した結果、R5年度計画値を概ね達成できている結果となった。
- 経営の健全性・効率性について、1㎡あたり原価の実績が目標を上回ったのは、供給量が減少傾向であることや経費が増加傾向であることが原因である。また、ガス普及率の実績が目標を下回ったのは、供給区域内戸数の伸び率に比べて、電化・LP戸数の伸び率が大きかったためである。（供給量、供給区域内戸数、電化・LP供給戸数の推移は後述のグラフを参照）
- 老朽化の状況については、有形固定資産減価償却率が目標を上回ったが、類似団体平均値 82.3%（令和4年度実績）※1と比べると本市の老朽化は比較的進んでいないものと考えられる。

経営指標		指標の見方	計画 (R6)	計画 (R5)	実績 (R5)	状況 (R5計画比)
健全性・ 効率性	経常収支比率（％）	高いほど良い	100.8	101.8	107.2	○
	流動比率（％）	高いほど良い	610.5	588.6	622.5	○
	料金回収率（％）	高いほど良い	101.0	102.2	109.0	○
	1㎡あたり原価（円）	低いほど良い	23.4	23.3	23.6	達成率98.7%
	ガス普及率（％）	高いほど良い	68.9	69.2	68.8	達成率99.4%
老朽化	有形固定資産減価償却率（％）	低いほど良い	79.1	78.6	79.5	達成率98.9%
	管路経年化率（％）	低いほど良い	86.1	84.5	84.1	○
	管路更新率（％）	高いほど良い	0.08	0.10	0.26	○

※1 類似団体平均値は、公開されている最新値の令和4年度末時点の数値である。

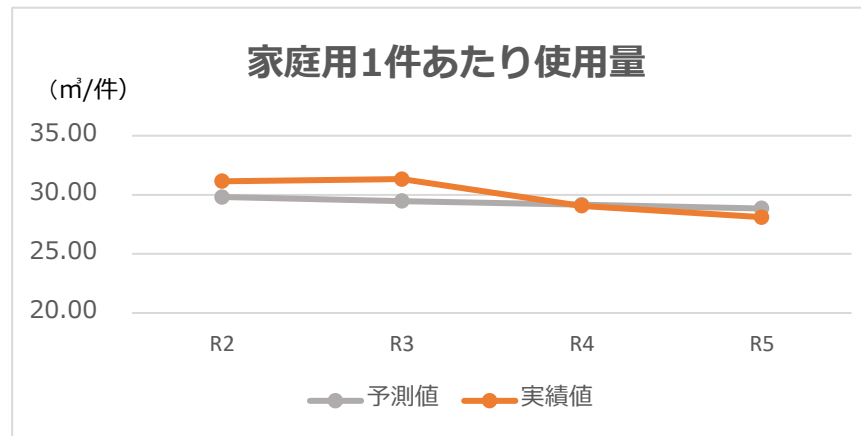
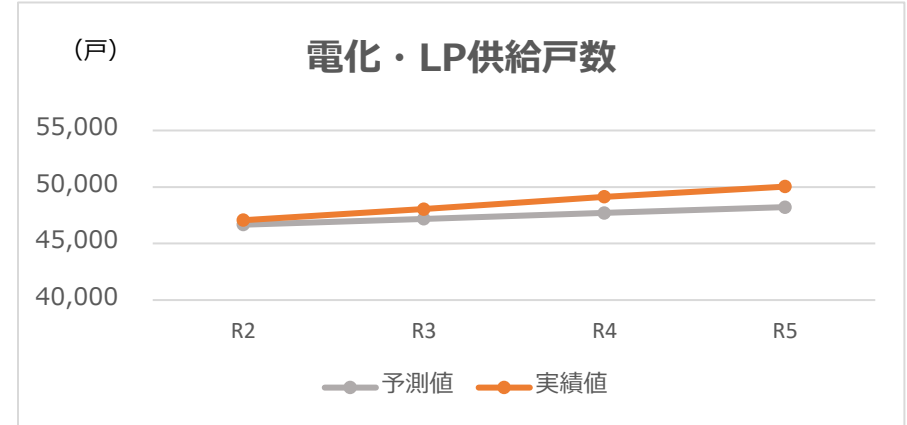
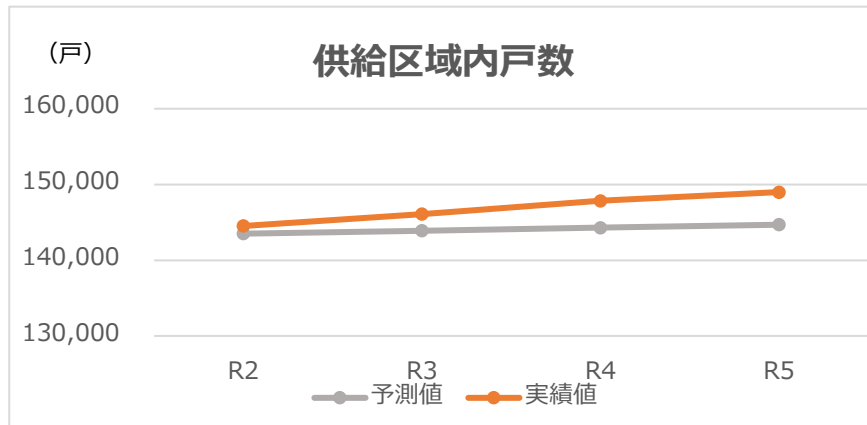
(4) ガス託送供給量 1/4

- 全体の年間供給量の予実比較を実施した結果、令和3年度は予測よりも上振れ、令和5年度は予測よりも下振れる結果となった。
- 令和3年度の上振れについては、家庭用や工業用が増加したことによるものである。
- 令和5年度の下振れについては、現行計画では家庭用以外の用途の需要がコロナ後回復すると想定していたが、実際には各社の状況次第で、一概に回復とはならなかったためである。



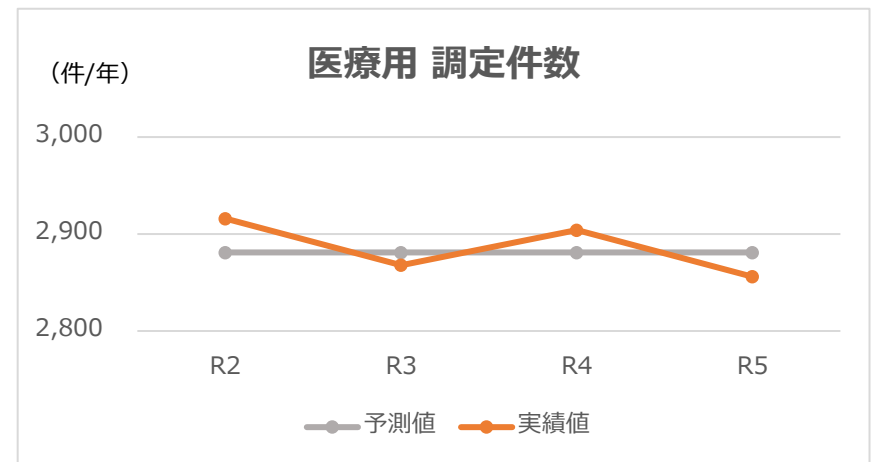
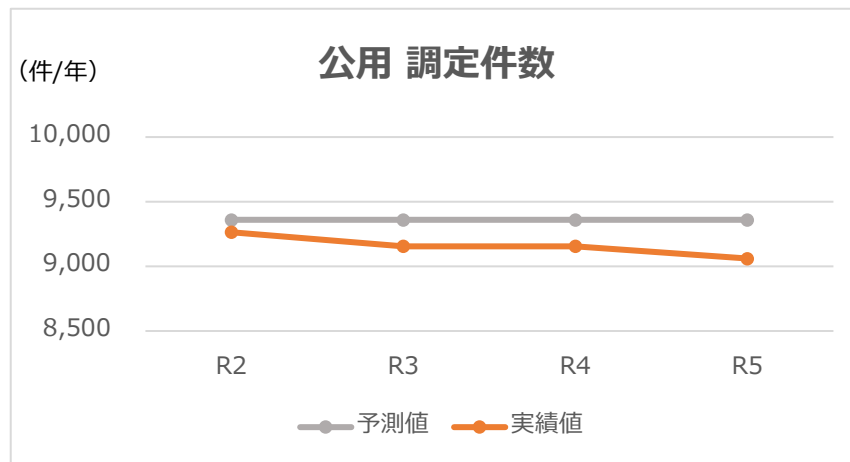
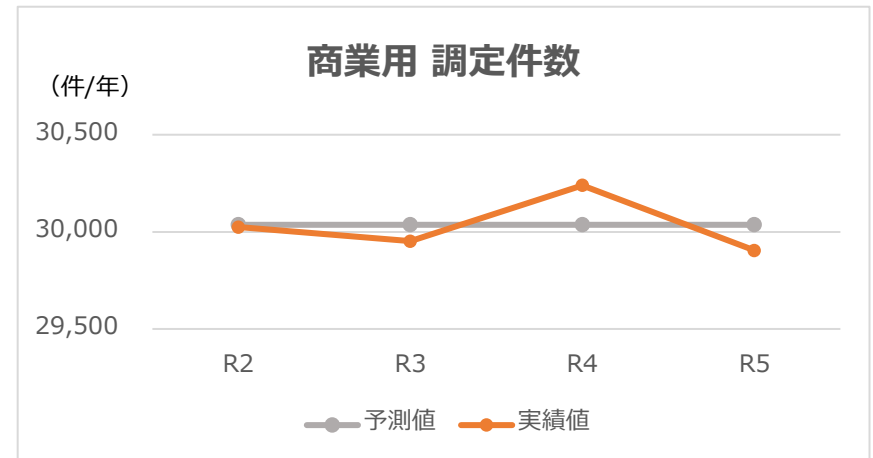
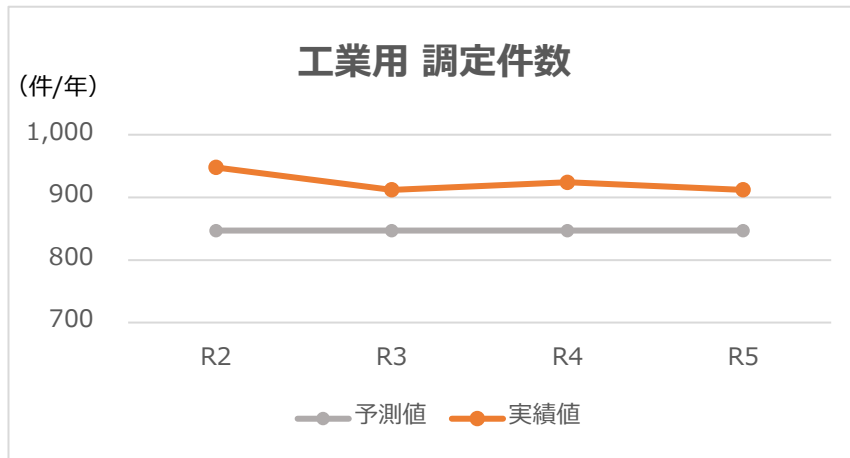
(4) ガス託送供給量 2/4

- 人口の上振れなどにより、供給区域内戸数および電化・LP供給戸数は予測より上振れとなった。
(なお、現行計画では、供給区域内戸数がR3からR18にかけて、約12%と大幅に減少する想定となっていた。)
- また、家庭用1件あたり使用量はR2～R3はコロナ禍の巣籠り需要の影響で上振れしたが、R4以降はゆるやかに減少傾向にある。



(4) ガス託送供給量 3/4

- 工業用、商業用、公用、医療用の調定件数について予実比較を実施した。
- 商業用と医療用は、バラツキがあるものの、各用途とも概ね横ばいに推移している。

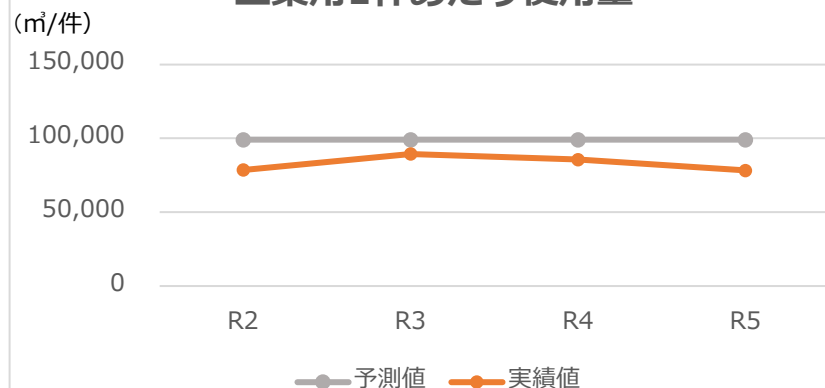


※1 調定件数は年度最終月における件数×12により算出している。

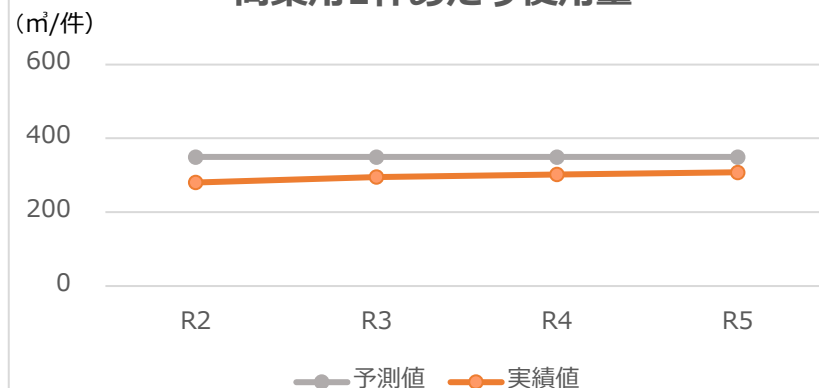
(4) ガス託送供給量 4/4

- 工業用、商業用、公用、医療用の1件あたり使用量について予実比較を実施した。
- 医療用のR3年度が一時的に上昇しているが、その後は概ね横ばいに推移している。

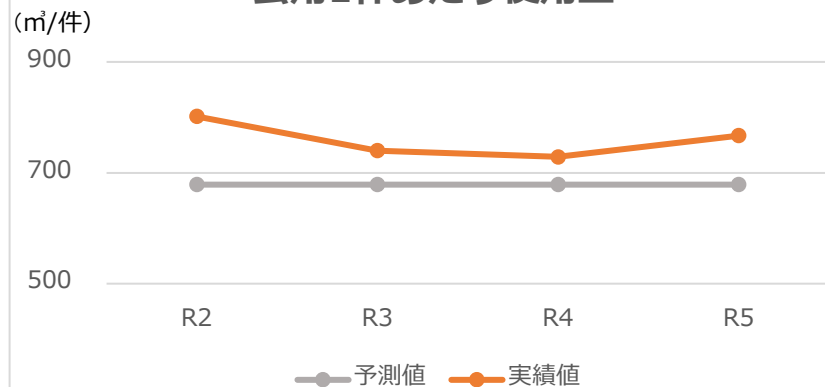
工業用1件あたり使用量



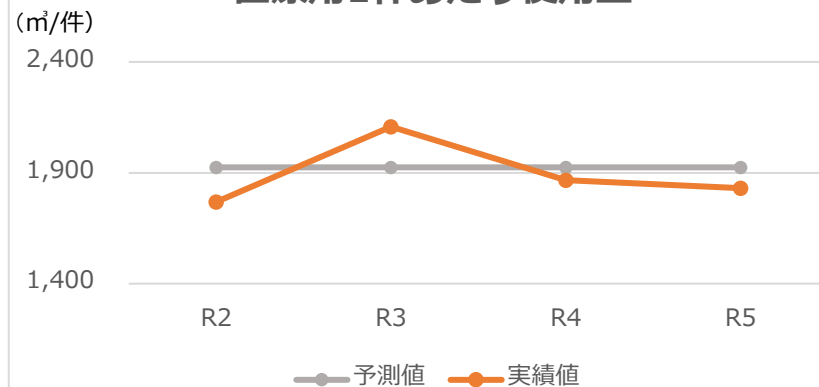
商業用1件あたり使用量



公用1件あたり使用量



医療用1件あたり使用量



2 令和6～36年度の需要・収益想定結果（需要想定の考え方）

- ・ 託送供給量 = 調定件数 × 1件あたり使用量
- ・ 調定件数および1件あたり使用量は用途別に算出しており、調定件数の家庭用は（供給区域内戸数）－（電化・LP供給戸数）で算出
- ・ 期待想定・堅実想定 of 試算においては、これらの計算要素のうち供給区域内戸数、電化・LP供給戸数、調定件数、1件あたり使用量の試算条件を以下のとおり現行計画から変化させて試算を行った。

【期待想定・堅実想定 of 条件】

家庭用

	期待想定	堅実想定
供給区域内戸数	時系列傾向分析により学区別に推計したうえで、 「第二期大津市人口ビジョン」の将来展望人口※1の減少率を全体に補正して推計	
電化・LP供給戸数	直近(R5)の数値をR6以降継続	世帯数に占める電化・LP戸数のR5の割合 (33.59%) × 年平均変化率 (R5-H26) で推計
1件あたり使用量	近似曲線に基づく減少率を用いて推計	

※1 現行計画では将来人口推計を用いたが、R2年度からR5年度の将来人口推計と実績とのかい離率は0.2%～1.1%であるのに対し、将来展望人口と実績とのかい離率は0.1%～0.6%であったことから、今回の想定においては、実績とのかい離がより小さい将来展望人口を採用することとした。

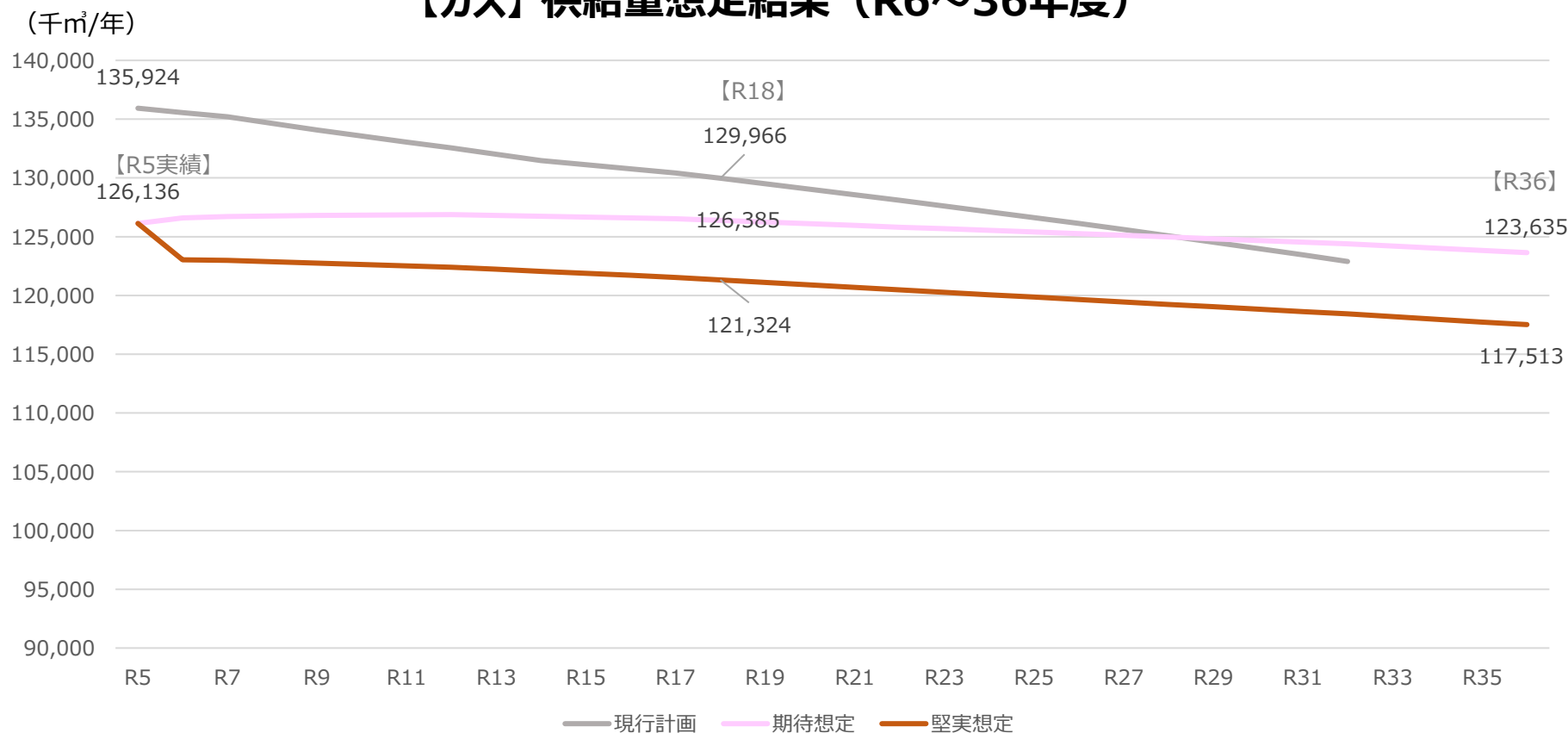
工業用・商業用・公用・医療用

	期待想定	堅実想定
調定件数	直近(R5)の数値と直近10年間の 平均値のいずれか高い方の数値を R6以降継続	直近(R5)の数値と直近10年間の 平均値のいずれか低い方の数値を R6以降継続
1件あたり使用量	直近(R5)の数値をR6以降継続	

2 令和6～36年度の需要・収益想定結果（ガス供給量想定結果）

- ・ 期待想定では、R18年度で約0.2%増、R36年度で約4%減少する見込みとなった。
 - ・ 堅実想定では、R18年度で約4%減、R36年度で約7%減少する見込みとなった。
- （いずれもR5年度実績比）

【ガス】供給量想定結果（R6～36年度）



3 経営の基本方針について

- ・水道事業にならい「ガスの目指す将来像」を規定。社会生活に欠かすことのできないエネルギーである都市ガスの安定供給を通じ、お客様に快適な暮らしをお届けするという、一般ガス導管事業の特性を踏まえた将来像とした。
- ・基本方針については、現行計画の趣旨を継承しつつ表現を調整。

【現行計画】

【今回改定】

将来像

ガスの目指す将来像

将来像

ガスの目指す将来像

お客様に快適な暮らしを届ける大津のガス

基本方針

- I.安全、安心で安定したガス供給の確保
- II.持続可能な健全経営の維持

基本方針

- I.安全、安心で安定した**大津のガス**
- II.**健全で**持続可能な**大津のガス**